

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	113-0024 文京区西片 1 丁目 1 番 10 号 ブリエジデンス文京 1 階
園名	tenkids 春日西片園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

英語～英語での表現を楽しむ～

<テーマの設定理由>

当園は園の立地もあり「異文化」に対して興味関心が高い子どもたちが多く在籍します。開園当初より英語の歌を流す、絵本の読み聞かせを行うなど自然な形で日常的に英語に親しむ環境を整えてきました。

日常保育の中では、子どもたちが自然と絵本に出てくる「Bye bye good night」と言いながらねんねの真似をするなど、自然な形で言葉を楽しむ姿がみられます。

子どもたちの興味をさらに広げて、職員や外国人の先生（外部委託）との簡単なやり取りや

2. 活動スケジュール

期間：2025 年 11 月～2026 年 3 月<0-2 歳児 18 名>

日常の保育の中で英語を使った表現を楽しむ活動を開始。さらに、交流の場として、オンラインでの外国人講師との関わりを開始。

◎活動事例<0-2 歳児 18 名>

11 月：「Good Night」寝る時間だよ。おやすみと言って電気を消して表現を楽しんだ。

12 月：「のりものとその音」を中心に、のりものから出る音の表現を楽しむ。英語と日本語での音の表現の違いを感じる。また、そののりものを見に行ったり、おもちゃで遊んだり、のりもの名前を英語と日本語で言ってみたりする

1 月：野菜や動物の名前を英語で言ってみたり、動物の鳴き声の真似してみたりする。

2 月：「いないいないばあ～」の表現を楽しむ

3 月：「Hug me」の表現を楽しむ。保護者とのやりとりなども取り入れてみる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

プロジェクター、スピーカー、zoom 用小型カメラ、P C、ウイズブックイングリッシュオンラインの資料、外国人講師、乗り物のおもちゃ、やさい、動物が出てくる絵本

園内で一番面積の広い壁を見やすい場所を子どもたちの活動場所として設定した。活動時は給食スペースで着座したまま参加し、ダンスの時間のみ保育室に移動し、安全に体を動かせるようにする。

子どもたちが興味のあるテーマと外国人講師とのレッスンの内容をリンクさせながら、あそびと言葉の表現を楽しめるような設定をした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【11月】普段から「英語」に親しんでいる子どもとそうでない子どもの様子に違いがあったが、保育者が歌ったり、動きをして見せることで真似し、笑顔がこぼれることもあった。

【12月】「音」や「音楽」を通すことで、子どもたちが興味・関心を持つ、踏み込みやすくなるということ为先月の活動を通して気付くことができたので「音」でイメージしやすい「のりもの」をお散歩の際に見えるのりものや絵本の中に出てくるのりものを見つけながら、その車の名前や走る様子を表現して楽しんだ。

【1月】色々な野菜や動物が出てくる絵本を保育で読みながら、野菜や動物に親しむ。英語レッスンでは「Looking For mammy」に出てきた動物を英語で言ってみたり、鳴き声の日本語との違いなども楽しみ声に出して言ってみる。

【2月】「Peek a boo!」は、英語版の「いないいないばあ」手や絵本でかくれたり、でてきたりをするのを見て身を乗り出して楽しむ様子が見られた。

【3月】「Hug me」の映像に合わせて、保育者と子どもがハグをしたり、ぎゅっと手を握り合うというスキンシップが自然と起こった。触れ合いに喜びを感じ笑顔を見せることもあった。お迎えの際に、保護者へ「Hug me」の言葉と共に「ぎゅー！」する体験へと広がった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・普段から「英語」に親しんでいる子どもとそうでない子どもの様子に違いがあったが、保育者が歌ったり、動きをして見せたりすることで、安心して真似をし始め、笑顔がこぼれることもあった。
- ・中には活動の初めから、英語の歌に強く反応し身体を揺らして楽しむ子どもたちが多く、その様子が印象的だった。
- ・「隠れている野菜を探そう」、隠れている何かを探すゲームは、「先生、見て見て！（look, look）あそこに隠れてるよ！」「〇〇くん、大正解？やったー！」と英語のゲームを通じて「できた」という達成感を感じている子どもの様子が見られた。
- ・犬の鳴き声は？猫の鳴き声は？と先生が問いかけると「ワンワン」「ニャー」を伝えると、満足気な表情が見られた。
- ・「Hug me」では、講師が用意した映像に合わせて、保育者と子どもがハグをしたり、ぎゅっと手を握り合うというスキンシップが自然と起こった。子どもたちも保育者との触れ合いに喜びを感じ、「ぎゅー！」と言いながら笑顔を見せることもあった。
- ・乗り物遊びでは、「ガタンゴトン（choo choo）」「しゅっぱーつ！（Let'sgo!）」「ウーウー、カンカン（woo-woo）」と言って遊ぶ様子や、英語の時間に出てくる「いってらっしゃい



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

「初めての物に触れる子どもの様子」を観察することができた。子どもたちは慣れるのも早く、園生活の中でふいに「A、B、C、、、」と歌い出す様子も見られた。改めて、子どもの柔軟性と吸収力、観察する力を感じることができた。

講師が子どもに対してする挨拶や、簡単な問い掛けに対して、「ハロー」「オッケー」と簡単な英語で返す様子も見られた。「声を掛けられたら、返す」というコミュニケーションの基本ができていた。日本語だけでは行き詰ったり、素直に答えたくないという心の成長もある時期の為、英語という「(子どもたちにとって)楽しいもの」を通してコミュニケーションの仕方、やりとりのあり方を身に付けていくのも一つの手であると感じた。また、英語を耳にしたり、口にする時間ができ、表現の幅が広がったように感じられた。

「英語」を通して、年齢ごとの特徴を裏付けるような姿を改めて観察することができ、それぞれの年齢の子どもたちと関わる上で大切な事柄を推察することができた。2歳児は他児とコミュニケーションがとれる活動、1歳児は玩具を通して遊び込めるような環境づくり、0歳児は信頼関係を築いた上でのやりとり、スキンシップ。これらを意識した保育をこれからも続けていきたいと考える。

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	文京区西片1丁目1番10号 ブリエジデンス文京1階
園名	ten kids 春日西片園

1 活動のテーマ

<テーマ>

表現～乳幼児期に必要な身体の育ち～

<テーマの設定理由>

先生の歌や音楽を聞くと体を揺らしたり手足を動かす姿があり子どもたちが思いっきり全身を使いながら脳と神経にアプローチした体操を作り子どもたちのしなやかな身体づくり、生きるために必要な筋肉を育て、「静」「動」を取り入れながら感情のコントロールのため本テーマを設定します。

2 活動スケジュール

◎期間：令和7年4月～令和8年3月<0-2歳児18名>

10月：2回、11月：2回 12月：2回 1月：2回 2月：2回 2月：2回

子どもたちがいろいろな音に触れる時間づくり、子どもたちの様々な動きの観察。職員と講師（外部委託）によるオリジナルの楽曲作成と子どもの発達に沿った体操づくりと子どもたちの健やかな育ちをサポート開始。楽曲作・体操の作成開始。

3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・オリジナル体操制作、保育士への外部委託講師による指導の実施、オリジナル音源の作詞、作曲制作
- ・一人一人が自由に体を動かせるスペース
- ・音楽を流すスピーカー

4 探究活動の実践

<活動の内容>

◎ただの運動ではなく、5歳までに大きく育つ神経系の発達を促し、生きるために必要な筋肉を育て、「静」「動」を取り入れながら感情のコントロールができるようにする。

「さんぽ」の曲に合わせて歩く、かかと歩き、つま先歩き、外側立ち歩き、講師の声掛けに合わせてジャンプ、回転飛び。

瞑想（「にじ」の曲が流れる中、床に寝転がり、心を落ち着かせる。）

◎毎日の小さな習慣が子どもたちの未来につながっていくので、日々の保育の中で、子どもたちが自発的に取り組めるように、オリジナルの音楽を流し行っている

◎体操以外の時間でもポーズをとる子がいたため、朝の会や帰りの会などでオリジナル体操の音楽を流し体操をしている。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

◎「できる、できない」に関わらず、「真似してみよう」という子どもの素直さ、柔軟さを感じられる姿が見られた。

◎できるところだけ参加、難しいところは休憩というように、子どもそれぞれの楽しみ方で参加する様子が見られた。

◎2歳児は、講師の先生の動きを真似して楽しもうとする姿が見られた。1歳児高月齢児に関しては初参加ということもあり、保育者の側で様子を伺う。自分が参加できるところだけ参加するといった様子が見られた。

◎「終わったら自分にも拍手」という場面で、子どもたちにも自然と笑顔が見られた。

◎隣並んで踊る子どもたちや、「〇〇くん、楽しいね！」と友だちとの会話を楽しみながら、「友だちと一緒に踊っている」ということを意識しながら参加している様子が見られた。

動作の後には、しきりに「せんせい、できてる？〇〇ちゃん、合ってる？」等と保育者に確認する子どもの姿が多く見られた。

◎0歳児を相手に、「〇〇ちゃん、お手ては、こっちだよ！」等と声を掛ける2歳児の姿が見られた。

◎「せんせい、〇〇くんできてる？」と確認する姿は見られるが、その回数が段々と減ってきて、一人ひとりがしっかりと活動に集中できているということが感じ取れる

◎両手を広げて、片足をあげるポーズをとると「かかしみたい～！」と声を出して表現する。

◎「静」の時間では、目を閉じて、音楽を聴いていると「きもちいいね～」「安心できるね～」と言葉で表現する。



5 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

◎子ども、保育者、全員が全員と自分自身に向けて拍手を行っていく。拍手という子どもも馴染みのある、ポジティブな動作。「できた」「がんばった」と自分自身を認めてあげられる機会を作るとことは保育においても大切な時間であると感じた。自分自身を認める為に、難しい言葉ではなく、簡単な動作、言葉で受け止めやすいものに変換して伝えてあげることが保育者に求められると感じた。

◎子どもたちは活動に集中して参加してくれている為、年齢によっては「友だちと一緒に体操することが楽しい」と感じる、一体感に気が付くということは難しいという姿も見られた。すなわち、子どもたちが一体感を感じる為には保育者の声掛け次第ということである。また、子どもたちが「できた」と感じる為にも保育者が「気付きを与える声掛け」「認める声掛け」をすることが求められるという気づきがあった。

◎難しい動作などでは集中力が続かず、ふらっとすることもあったが、それを受けて2歳児が優しく0歳児をフォローする姿が見られた。このような、心の通わせ合いが自然に起こる活動は子どもの心身の成長にとっても大切であり貴重である。子ども同士が関わって成長していける機会を増やしていきたいと感じた。

◎体操をした日は、多くの笑顔を見せる様子が見られた。子どもの気持ちが切り替わらない時には、体を使ってスッキリできる活動を提供することが求められると感じた。

◎今回の活動で、子どもたちの素直さ、柔軟さから「生きていくために学ぶ」という子どもならではの力を感じた。園生活においても、上の学年の遊びに参加したがつて、その遊びに必死に付いていく、そして気付いたら同じように遊べるようになっていくという事例もある。保護者、友だち、保育者、外部の講師、町の人、子どもたちの学習対象は数多であり、子どもの吸収力の高さを改めて認識できた。子どもが興味を持ちやすいのは「楽しそうなこと、遊び」であるため、いかに身に付けて欲しい事柄を活動に落とし込んでいくかという意識が大切だと思われる。